

移住交流支援センターだより



地域おこし協力隊
橋本 泰子
グリーンバレーが取り組む移住交流支援事業について、詳しくお伝えします。

■「神山だから開設できたサテライトオフィス」

2012年5月、神領字西上角に株式会社ソノリテの神山サテライトオフィスが開所しました。開所から一年半、代表の江崎さんは、毎月数日間、神山に滞在しながら、地域とのつながりを大切に育てて来ました。またサテライトオフィスとしては初めて地元での雇用を行うなど、今では地域に密着したオフィスとして存在しています。

ソノリテが神山にオフィスを開設するきっかけとなったのは、神山に縁のある方からの「神山に行つてみない？」という一言だったそうです。見知らぬ土地で仕事が始まることのできるのかという心配もありましたが、「とにかく行つて見てみよう」と訪れた神山で、予想は大きく裏切られ、多くの地元の方からのサポート、そして、あたたかい言葉に迎え入れられたそうです。インターネットを通じてのお仕事は、都会だけではなく、自然環境に恵まれた地方でもでき、そこで雇用を生み出すことがサテライトオフィスの役割なのかもしれないのですが、そこに支援する側の「人」という環境が整っていないければ、オフィスは開設できなかつたかもしれないと、「神山だからこそできた」と江崎さんは話してくださいました。



株式会社ソノリテ 代表
江崎礼子さん(43歳)

■「女性」の働く場として

ソノリテ神山サテライトオフィススタッフは全員が女性です。女性ならではの丁寧できめ細やかな対応と、神山で暮らすことに喜びを感じているスタッフのみなさん。職場と家が近いことで、子育てや主婦業を両立しながら仕事ができることに、ここで働くメリットを感じているそうです。

「神山のみなさんと一緒に、全国のNPOのバックオフィスを支えていけることを嬉しく思っています。」



■ソノリテ神山オフィススタッフ紹介

一宮香織さん(30)
神領字本上角
兵庫県明石市出身。結婚を機に神山で暮らし始めて4年。現在、子育てをしながらソノリテに勤務。今年10月に入社したばかり。結婚後退職をし、子供中心のお付き合いになっていたが、仕事に復帰し、町にいるみんながいることに気付いたと語る。「神山オフィスには視察に訪れる人が沢山いて、まず驚きました。そんな中で地元の人から寄って下さることもあり、地元にも密着しているんだなぁ」と感じています。最初は「サテライトオフィス」ということも知らずにいました。これまでは外から眺めて何だろうと思っていた建物でしたが、今は中の様子ももちろん知っていて、立派だなぁ、味があるんだなぁと感じています。」



河本雅美さん(35)
下分字左右山
神山塾4期生として神山に移住。下分の加工場を中心に下分地域のお母さんたちと加工品を作ってお祭りに出品するなど地域活動も積極的に行っている。仕事を始めて5ヶ月、今が充実していると語る。「神山然り、どこの田舎でもそうだと思いますが、仕事がないから外に出ていかざるを得ない状況の中で、このように町内に仕事があることと自分が有難いと思っています。ソノリテでの仕事はたくさん覚えることがあって、ひとつ覚えたと思っても、またその向こうに更に別の仕事があることに気づきます。大変なこともありますが、自然が綺麗で、人も温かく、食べ物も美味しい、そんな神山で仕事をできることが幸せです。」



栗飯原美智さん(29)
下分字栗生野
小松島市出身。結婚を機に神山で暮らし始めて8年。現在、子育てをしながらソノリテに勤務。オープンنگと同時に入社。農業を担いながら、ソノリテにも勤めるまさに「半農半X」の働き方を実践している。「ひとつの仕事だけではどうしても息が詰まってしまうこともありますが、家で農業をしたり、同世代の多いソノリテの神山オフィスで他のメンバーと話しながら仕事をしたりできることで、それぞれの時間が有意義になっている気がします。代表を始め、女性の多い職場だけに子育てをしながらの働き方に理解があり、その点は非常に助けられています。」



野原奈津美さん(34)
阿野野地ノ平
神山塾2期生として神山に移住。昨年、結婚し、来年1月には第一子を出産予定。オープンング当初からのスタッフとして、入社から一年半。「あつという間でした。ようやく仕事に慣れてきた気がします。最初の一年間は仕事に慣れることに精一杯でしたが、今はやるべき仕事が見えているので、その仕事の多さに目一杯です。」と語る。ソノリテでの仕事は「ここだから、というよりここでもできる」仕事だという。東京のオフィスと同じ仕事を神山でも行えるサテライトオフィスの働き方。「神山での雇用の場があり、地元で働けることが有難い。」

